

BP テキサス製油所で爆発死亡事故発生

2008 年 1 月 14 日（月）BP テキサス製油所で爆発があり、勤続 32 年のベテラン職長が死亡しました。事故は、ウルトラクラッカー設備の再スタート時に発生し、約 230kg の濾過装置の蓋が吹き飛び頭部に当たったものです。当初は約 1.2MPa の水圧でボルトが切断されたものと言われましたが、その後、化学爆発によるものとされています。会社の発表では、頭部の打撲による死亡でしたが、弁護士によれば火傷も認められ、火災及び油の漏えい事故によるものとされています。また、弁護士によれば、従業員の話としてボルトの緩みか劣化による強度不足も指摘されています。事故の詳細は不明ですが、CSB（米国化学物質安全性調査委員会：Chemical Safety and Hazard Investigation Board）が原因調査に入ったことから、漏えい・爆発等の化学プロセス災害の可能性が大きいようです。

BP テキサス製油所では、当事故事例シリーズで紹介しましたように、2005 年 3 月に大きな爆発事故が発生し 15 名の死者が出たばかりですが、この事故後も 2006 年 7 月に、配管工事中の”挟まれ”による死亡事故を、2007 年 6 月に残渣油水素処理装置で”感電死亡事故”と重大災害が続発しています。

2005 年の事故に対して、労働安全衛生法違反で 2,100 万ドルの罰金が科せられましたが、2007 年 10 月には、大気浄化法（Clean Air Act）違反を認めて 5,000 万ドルの罰金を支払うことに同意しました。しかし、犠牲者の家族は寛大すぎると反論しています。また、死亡を含む約 4,000 の訴えの半数以上の解決に、BP は既に 16 億ドルを費やしました。

BP テキサス製油所は、2005 年 9 月にハリケーン「リタ」に襲われ製油所が閉鎖し、2006 年の春以降、順次設備の点検を行いながら再スタートを開始し、日量 437,000 バレルの能力が 300,000 バレルに回復したところでの事故ですが、生産への影響は軽微のようです。

化学装置の工事や点検後の再スタートは、最も事故の起きやすい時期と言われていきます。工事管理、設備管理、運転管理、特にスタートアップ手順の見直しと遵守状況の確認をお願いします。

情報源

【Houston Chronicle 紙】

Man killed at BP plant was shift foreman, lawyer says (2008.1.15) :

<http://www.chron.com/disp/story.mpl/headline/metro/5454130.html>

Fatal BP accident is third since explosion (2008.1.15) :

<http://www.chron.com/disp/story.mpl/headline/biz/5458362.html>

BP, victim's family probing fatal Texas City refinery accident (2008.1.16) :

<http://www.chron.com/disp/story.mpl/ap/business/5458808.html>

BP equipment will be tested (2008.1.16) :

<http://www.chron.com/disp/story.mpl/headline/biz/5461846.html>

Agency to investigate death at BP refinery (2008.1.17) :

<http://www.chron.com/disp/story.mpl/headline/biz/5465436.html>

Explosion May Have Caused BP Fatality (2008.1.17) :

<http://www.chron.com/disp/story.mpl/ap/fn/5464790.html>